



北海道議会議員

がんばろう
小樽・北海道

ただひろ
佐藤 禎洋

令和2年12月号

発行/佐藤禎洋 政務調査室

第4回定例会・予算特別委員会、道の課題について鈴木知事に質す

①新型コロナウイルス感染症の警戒ステージ運用について

感染者や死亡者が急増するような状況を踏まえ、クラスター対策、死亡者数を抑えることに重点を置くなど、政策の重点化を図る必要があることを指摘したが、現在の感染状況を収束に向わせる戦略に知恵を絞って頂きたい。対応戦略の今後に対する知事の見解は。

【 知事 】

道では、国から示された考え方を踏まえ、感染が生じやすい状況などに関連する事項を重点的に確認し、感染拡大をより効果的に防ぐことができるよう取り組んでおります。今後も引き続き、専門家のご意見、他の都府県での取り組みを参考とし、感染拡大の防止に万全を期して参ります。



②JR北海道の経営改善について

JR北海道の経営自立に向けた確かな道筋を見通すことが難しい中、なにより必要なことは、知事自らが「国鉄清算事業団体責務等処理法の改正を確かなものとし、オール北海道の提言を踏まえた支援の大綱を明らかにしていくこと。持続的な鉄道網の確立に向けて、国の対応を引き出し、地域の関係者に説明していく責務がある」と考える。今後の対応について伺う。

【 知事 】

持続的な鉄道網の確立、JR北海道の経営自立に向け、収益構造の安定化やコスト負担の見直し、オール北海道で取りまとめました、国への提言を実現する事がなにより重要。早急に国と意見交換を行う場を設け、本鉄道網の重要性、地域における利用促進などの取組について、ご理解を頂き、支援が講じられるよう国に対応を求めて参ります。



鈴木知事に質問する佐藤道議



質問に対して答弁する鈴木知事

③ 「エールを北の医療へ！」の寄付金の基金設立について



この取り組みは全国から寄せられた寄付金を効果的に活用できる非常に優れた取り組み。今後も継続して実施されることが望まれておりますが、複数年にわたる継続的な支援が困難とのことであります。寄付金の新たな受け皿となる基金の新設について知事は早急に結論を出す必要があると考えます。見解をお伺いします。

【 知事 】

道では、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中で、現在も、数多くの寄付金の募集を継続していくこととしておりますが、医療従事者の方々の勤務環境の改善や必要な資器材の整備は医療従事者のみならず、医療機関への支援にも資すること、寄付金を活用した今後の事業展開や年度内の基金の創設について、他県における事例も参考にしながら、早急に検討を進めて参る考えであります。

④ 中小企業の振興等について

道内の中小企業では、健全経営を維持しているにもかかわらず後継者難から廃業を選択する企業が増えてきており、地域の経済や雇用の場を守っていくうえで事業継承、特に親族以外の第三者への事業継承促進が大きな課題となっております。民間金融機関等と協力し第三者などへの事業継承を促進するためファンドを設立しておりますが、申込期間が今年度いっぱいとなっていることから、来年度以降も積極的に取り組む方針を明確に示すべきと考えます。見解を伺います。

【 知事 】

中小・小規模企業の維持・継続に向けまして、ファンドの出資者であります金融機関や中小企業総合支援センターと協議をすすめて、第三者への事業継承が一層促進されるよう、ファンドの運営について、必要な対応を検討して参ります。

